

ROTOBO

Connecting Markets

ロシアNIS経済速報

一般社団法人 ROTOBO

2026年(令和8年)3月15日号 No.2018

目次

■ 数字で見るロシアの石炭生産と輸出	1
■ 統計速報	9
2026年1月の日本の対ロシア・NIS諸国輸出入通関実績／9	
2026年1月の日ロ貿易／10	
■ トピックス	13
スズHD、モンゴルに合弁会社を設立／13	
米、ロスネフチ独子会社を制裁対象から除外／13	
米、ロシア産石油の販売を許可／13	

数字で見るロシアの石炭生産と輸出

はじめに

今号では、ロシアの調査会社Tebiz Group発行「ロシアの石炭市場分析」から、2024年のロシアの石炭の生産・輸出動向を紹介する。ご存知のとおり、ロシアは2022年2月のウクライナ侵攻以降、輸出データの公表を制限している。国際機関や各国税関当局が発表するデータとの間に多少の差はあるものの、侵攻の長期化と西側との関係対立がもたらした輸出先の変化など、資料を分析することは、ロシアの石炭部門をよりの確にとらえるヒントになるはずである。

解説

2024年の1年間にロシアで生産された石炭は前年比0.6%減の4億2,697万tとなった。ロシアはウクライナ侵攻後、西側諸国の輸入制限を受け、中国・インド・トルコなどへの輸出を拡大し、生産量の維持に努めてきた。しかし、市場環境の変化や制裁の影響により生産縮小が続ぎ、3年連続の減少となった。2021年と比べると、生産量は約1,000万t減っている。

ノヴァク副首相は、今年1月の雑誌インタビューで、2025年の石炭生産量が4億4,000万tに達したことを明らかにした。2025年も、西側諸国による制裁強化(西側市場喪失による収益性の低下)、国際価格の下落、輸送・必要経費コストの増大という「三重苦」に直面し、厳しい経営環境が続いた。それでも最終的には、前年並みの生産量を確保した。

ロシア最大の石炭生産地域は、クズバス炭田を抱えるシベリア連邦管区(主にケメロヴォ州やノヴォシビルスク州)で、国内生産の70%を占める。次いで極東連邦管区(サハ共和国、ハバロフスク地方など)が26.5%で、両地域で全体の97%を占めている。